

脱プラスチックによる環境問題 ～若い世代の人たちに認知してもらうために～

鹿本高校

要旨

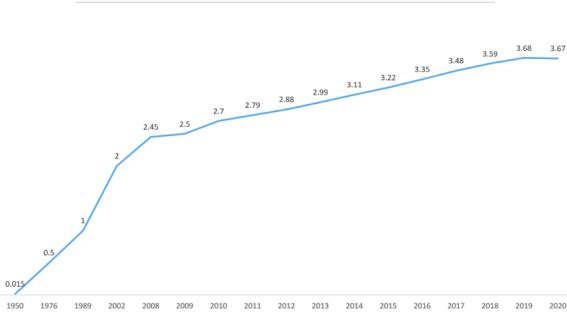
近年、世界でSDGsが重要視されている。地球温暖化の影響で、海面が高くなったりなど深刻な環境問題が発生しているからだ。SDGsには17項目の目標がある。それらを達成するためには、一人一人の協力が必要だと考える。今回は環境問題を少しでも防ぐために「脱プラスチック」というテーマで研究を行った。

研究背景

SDGsの取り組みの一つとして、脱プラスチックがある。そもそも脱プラスチックとは、その名の通りペットボトルやレジ袋などのプラスチック製品を極力利用しない、別の素材のものを利用することを指す。

1950年から2020年の世界のプラスチック生産量はこのようになっている。

1950年から2020年までの世界のプラスチック生産量(単位:億トン(t))



プラスチックが引き起こしている環境問題は、主に地球温暖化と海洋汚染の2つに分けられる。プラスチックの原料として「石油」を大量に消費し、焼却処分をすると二酸化炭素が排出され地球温暖化を助長してしまう。また、廃棄されたプラスチックは海洋マイクロプラスチックなどとなって環境汚染、生態系にも影響を与えている。

日本国内で排出されるプラスチックごみの量は年間約900万トン。日本では、2020年7月1日から、レジ袋の有料化が開始され、2021年3月には「プラスチック資源循環促進法」が閣議決定された。少しずつ脱プラスチックに向けた取り組みが進み始めている。

研究方法

文献調査と本、インターネットを使って調べた。

結果・考察

①脱プラスチックのメリット

まず企業について。脱プラスチックに取り組むことで、環境への配慮がされている企業だと判断され、投資対象の企業として選択される。例えば、大手企業がプラスチックゴミを大量に廃棄する・二酸化炭素の排出が多い企業とは取引を打ち切るなど、環境に配慮した会社でないと選ばれない傾向が見られるようになった。つまり、脱プラスチックに取り組むことは、**企業の存続を左右する**といっても過言ではない。

次に個人について。個人が脱プラスチックに取り組むことで、**将来の健康を守る**ことに繋がる。プラスチックごみは最終的に海に流出し、そのプラスチックごみを魚が口にしてしまいます。そして体内に蓄積されてしまう。その魚が水揚げされて市場に出回れば、私達の食卓に並び、プラスチックを食べてしまう恐れがある。

引用文献・参考文献

阪口竜也(2022)「脱プラスチックとは？メリットやデメリット、企業の取組事例、おすすめ代替品まで」

https://spaceshipearth.jp/plastic_free/ 2022年8月27日

株式会社フラッグ(2020)「脱プラスチックの取り組み事例集！身近ですぐできる持続可能な社会への貢献とは」<https://style-tokyo.com/life/6766/> 2022年8月29日

福岡県 「プラスチック代替品紹介パンフレット」<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/attachment/149417.pdf> 2022年8月30日

笹木隆之(2018)「紙・プラスチックを代替 世界が目にする革命的新素材」<https://www.projectdesign.jp/201804/sdgs-innovation/004726.php> 2022年8月30日

株式会社ドウ・ハウス <https://www.dohouse.co.jp/datacolle/rs20200318/> 2020年3月18日

②脱プラスチックのデメリット

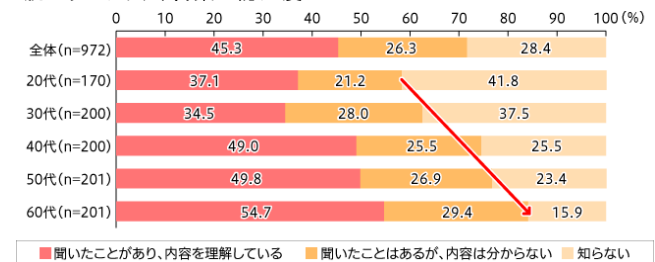
まずは、企業について。デメリットは**コストがかかる**点。プラスチックは安価で軽く、輸送に優れた製品。対して、代替品と素材は、まだまだプラスチックと比較すると高価なものが多く、加えて輸送にもコストがかかるケースがある。

次に個人について。企業のコストがかかれば、必然的に**製品の価格も上昇する**。つまり、私達が購入する際のコストもプラスチックと比べてかかってしまう現状がある。

③脱プラスチックの認知度

脱プラスチックの内容を理解している人は(下のグラフから)、20代での認知率は37.1%、60代では54.7%となっている。脱プラスチックの認知度は、年代が上がるほど高まっている。

・脱プラスチック、言葉の認知度



④日本の脱プラスチックの取り組み

・カップラーメンの容器を紙素材に

発泡スチロール製のものから紙由来のものへと変更しているものがある。紙はバイオマスで地球に優しい資源といわれている。

・リサイクルできるペットボトル

リサイクルが可能な容器へ変更したり、使用済みのペットボトルをリサイクルして新たなペットボトルとして使用する(循環利用)取り組みが行われている。

・プラスチックストロー廃止の動き

ファミリーレストランでは、プラスチックストローを廃止したり、店内に設置しないという取り組みをしている。また、外食チェーン店ではストローを紙ストローに変えている。

今後の展望

今回脱プラについて調べてみることで、自分は分別ができていても世界規模で見ると、全くできていないということがわかった。このことから、今のままでは環境汚染が進んでいくのではないと思う。そうならないためにも山鹿市から世界へ脱プラを広めていくためにポスターやパンフレットを作ってひとりひとりに脱プラを知って貰う必要があると思う。